

令和4年度 鹿児島県学力向上フォーラム

脇本小における学力向上の取組



R4 児童数191人 県費常勤教職員17人
理科・外国語専科配置あり
学級数12（通常の学級7 特別支援学級5）

令和 4年 8月 23日
阿久根市立脇本小学校

1 本校の実態

2 校内研修の充実

3 授業改善

4 その他

(1) 各種調査の分析結果の活用

(2) ICTの活用能力の育成

(3) 教材研究の時間を生み出す業務改善

鹿児島学習定着度調査結果(県平均との差)

	R1		R2		R3	
	基礎・基本	思考・表現	基礎・基本	思考・表現	基礎・基本	思考・表現
国語	-1.8	-2.1	5.6	6.4	4.6	1.6
社会	11.4	8.7	9.5	-5.9	9.6	6.9
算数	5.6	0.7	4.9	-0.4	11.6	10.1
理科	4.8	-1.9	4.3	0.9	11.8	13.6

主な課題

- (1) 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること
- (2) 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書くこと
- (3) 日常の事象を数理的に捉え、数理的に表現・処理すること
- (4) 計算結果について数量の関係に着目した考察をすること
- (5) 数量や図形、数量関係を考察して見出した事実を記述・確認・説明すること
- (6) 学びに向かう力及び自己肯定感に関すること

2 校内研修の充実

令和3年度校内研修テーマ

学ぶ楽しさを知り，学びに向かう力を育てる指導方法改善の研究
～言語能力を高める授業改善の在り方～



子供の実態(言語能力)の確認⁵

2 校内研修の充実

授業改善ミニカード

名前 ()

1 研究授業から学んだこと

ICT活用について具体的な進め方(使い方)がわからず。子どもたちに何を身に付けさせるかを明確にして使うことも大切である。子どもたちはまだ知らない領域から新しいことがたくさんあるので絵を使ってイメージをもたせたい。ICTを活用して調べたいことがあることが大事だと感じた。

2 今後、自分の授業で取り組んでみたいこと

調べ学習でICTを使ったことがないので、どの教科でもいろいろな形で取り入れていきたいと思う。もっと具体的な使い方を毎月に取り組みしていきたい。

3 その他、感想等ありましたらお書きください。

お礼中、授業の提供ありがとうございました。2年生の子どもたちと見ていると楽しく学んでいると感じました。もっと具体的な活用方法を学び、私も取り入れたいです。
ご協力ありがとうございました。

教師が、各自の「学び」を明確にすることで、授業改善に取り組んでいきます。



共通実践事項



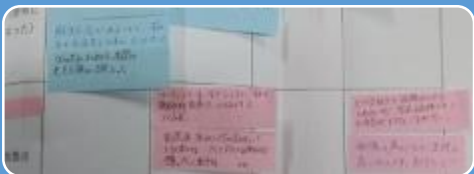
(1) 対話活動の充実



(2) ICT機器の活用



(3) 脇本タイムの充実(授業終末)



(4) 一人一授業

3 授業改善

(1) 対話活動の充実

グループ活動の進め方(5, 6年)

はかせタイム(5, 6年)

	進行係	メンバー
1	何を話し合うかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 今から〇〇について話し合います。(今から〇〇について発表し合います。) お願いします。
2	一人一人の意見や考えたことを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんから、分かったこと(考えたこと)を発表してください。(順番に全員指名する) 意見が出ないので、先生にヒントをもらいたいと思います。いいですか。
3	自分の考えとちがうところをたしかめる。	<ul style="list-style-type: none"> 質問があれば発表してください。 △△さんの意見について、〇〇さんどうぞ。 〇〇さんに質問です。どうして〇〇だったのですか。 はい。それは〇〇と考えたからです。
4	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 考えの同じ点ちがう点を話し合う。 グループの考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 私と同じところは「〇〇〇」です。 〇〇さんの考えが分かりやすいと思います(一番納得できます)。 わたしは、〇〇を付け足した方がいいと思います。 〇〇さんの考えが分かりやすいのでいいと思います。 わたしは、〇〇の方がいいと思います。なぜなら～だからです。 お願いします。
5	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> これで〇〇班の話し合い活動をおわります。ありがとうございました。 ありがとうございました。

	進行係	メンバー
4	今からはかせタイムに入ります。	
5	<ul style="list-style-type: none"> グループの考えをまとめる ☆ 考えの同じ点ちがう点を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 私と同じところは「〇〇〇」です。 〇〇さんの考えが簡単で分かりやすいと思います。 わたしは、〇〇を付け足した方がいいと思います。 わたしは、〇〇の方がいいと思います。なぜなら～だからです。
6	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> これで〇〇班の話し合い活動をおわります。ありがとうございました。 ありがとうございました。

理由

順序

比較

分類

関係付け

仮定

統合・要約

類推

(1) 対話活動の充実



ペアで伝え合う



グループで伝え合う



グループで伝え合う



全体の場で伝える

子供同士の協働，教師との対話等で自分の考えを**広げ深める**。

ICT機器を効果的に活用し，考えを可視化したり，対話活動の時間を生み出したりします。



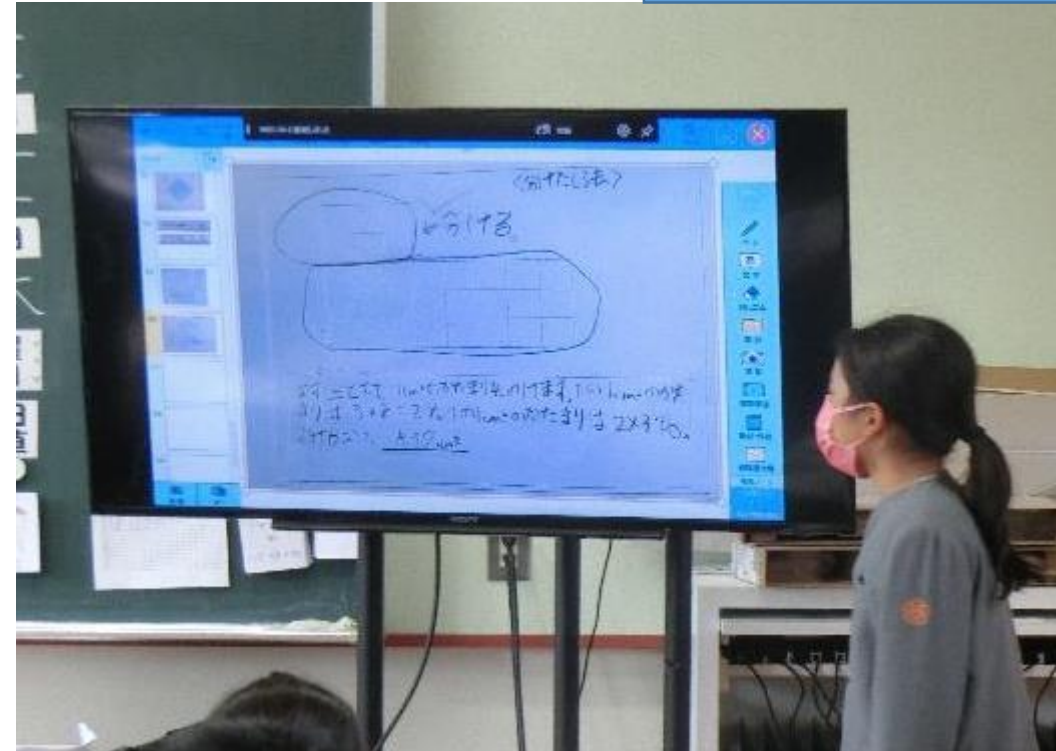
(2) ICT機器の活用

5年生

4年生

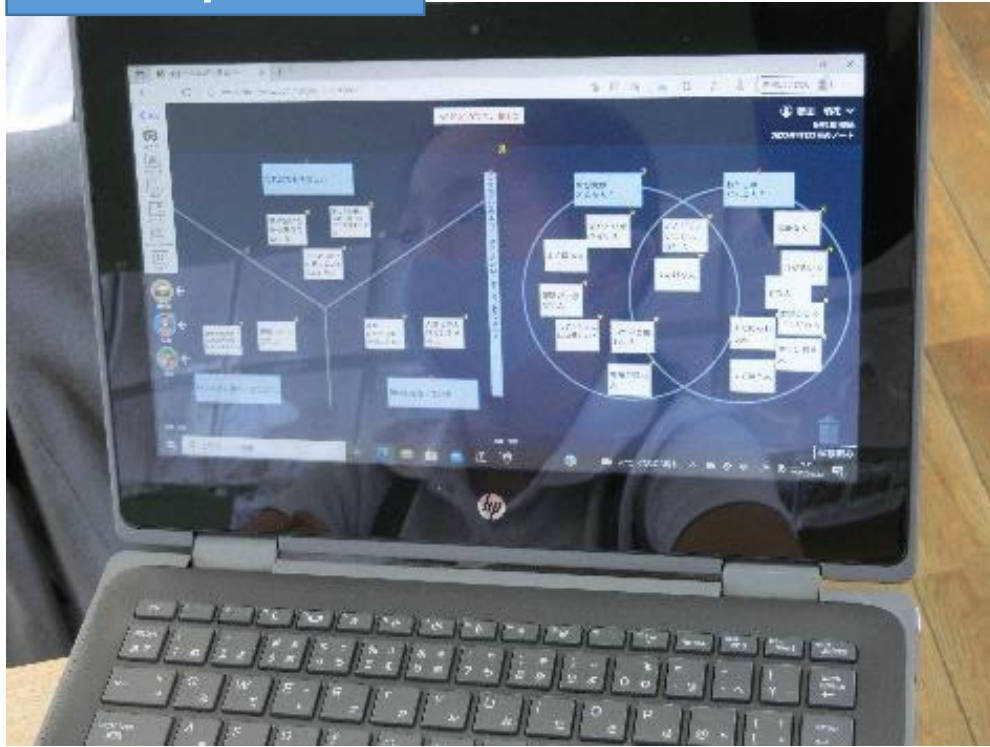


教師による教材の提示



児童のノートを提示

6年生



4年生



考えを深めるために子供が思考ツールを活用
(1人1台端末の活用)

5年生

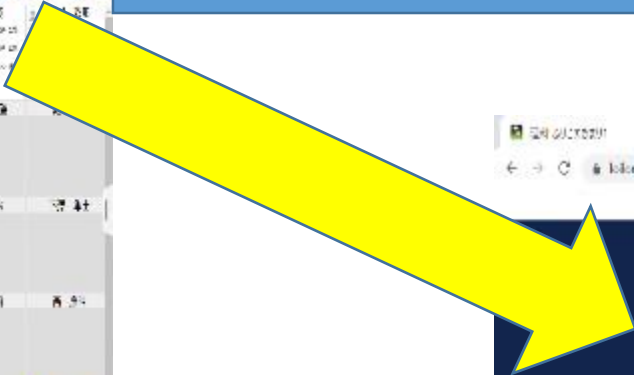
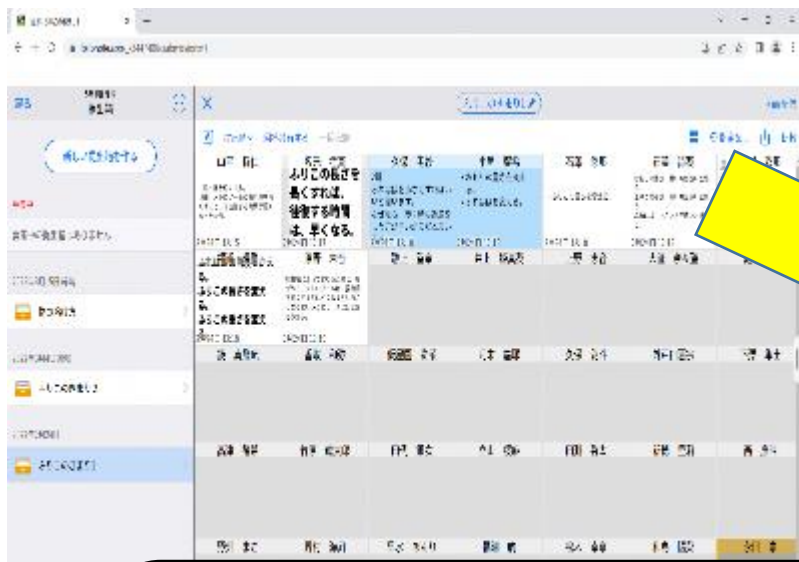


意見の交流
(1人1台端末の活用)

友達の考えをすぐに
知り, 自分の考えと比
較することができます。



6年生(理科・・・演習問題の取組)



- 振れ幅を短くする。
理由 メトロノームの振れ幅を短くすると、1往復する時間が短くなったから。

思考・判断・表現力を問う問題が苦手な児童も参加できるように、グループで話し合ったことをまとめています。



3 授業改善



動画で撮っておくと、児童のパフォーマンス(話す「発表」「やりとり」)を評価できます。

児童が自分の姿を客観的に振り返ることで、課題を見付け、次の学習に生かそうとすることができます。

スタディ・ログ(学習履歴)の活用(外国語)

(3) 脇本タイムの充実(授業終末ラスト10分)

キーワードを使った児童による「まとめ」

「分かった」「できた」を実感させる手立て

自分や友達の学びの振り返り

3つのポイント



(3) 脇本タイムの充実(授業終末ラスト10分)

月 日 脇本タイム
3年()番 名前()

() ヒントなしで解いた () ヒントありで解いた

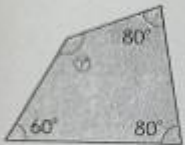
① 1分=()秒
② 1分20秒=()秒
③ 90秒=()分()秒
④ 180秒=()分

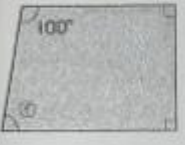
3年


月 日 脇本タイム
5年()番 名前()

() ヒントなしで解いた () ヒントありで解いた

次の①~③の角の大きさを、計算で求めましょう。

① 式)  答え _____

② 式)  答え _____

③ 式)  答え _____

5年

月 日 脇本タイム
6年()番 名前()

() ヒントなしで解いた () ヒントありで解いた

針金の長さ×重さ

長さx(cm)	0	1	2	3	4	5
重さy(g)	0	8	16	24	32	40

① xとyの関係を表す式に表しなさい。
式) _____

② 長さが9cmのときの重さ
式) _____

③ 重さが96gのときの長さ
式) _____

6年

裏面にも同じ問題を印刷しています。



3 授業改善

「分かった」「できた」の実感



まずは自分で取り組みます。
・自己の理解度の確認



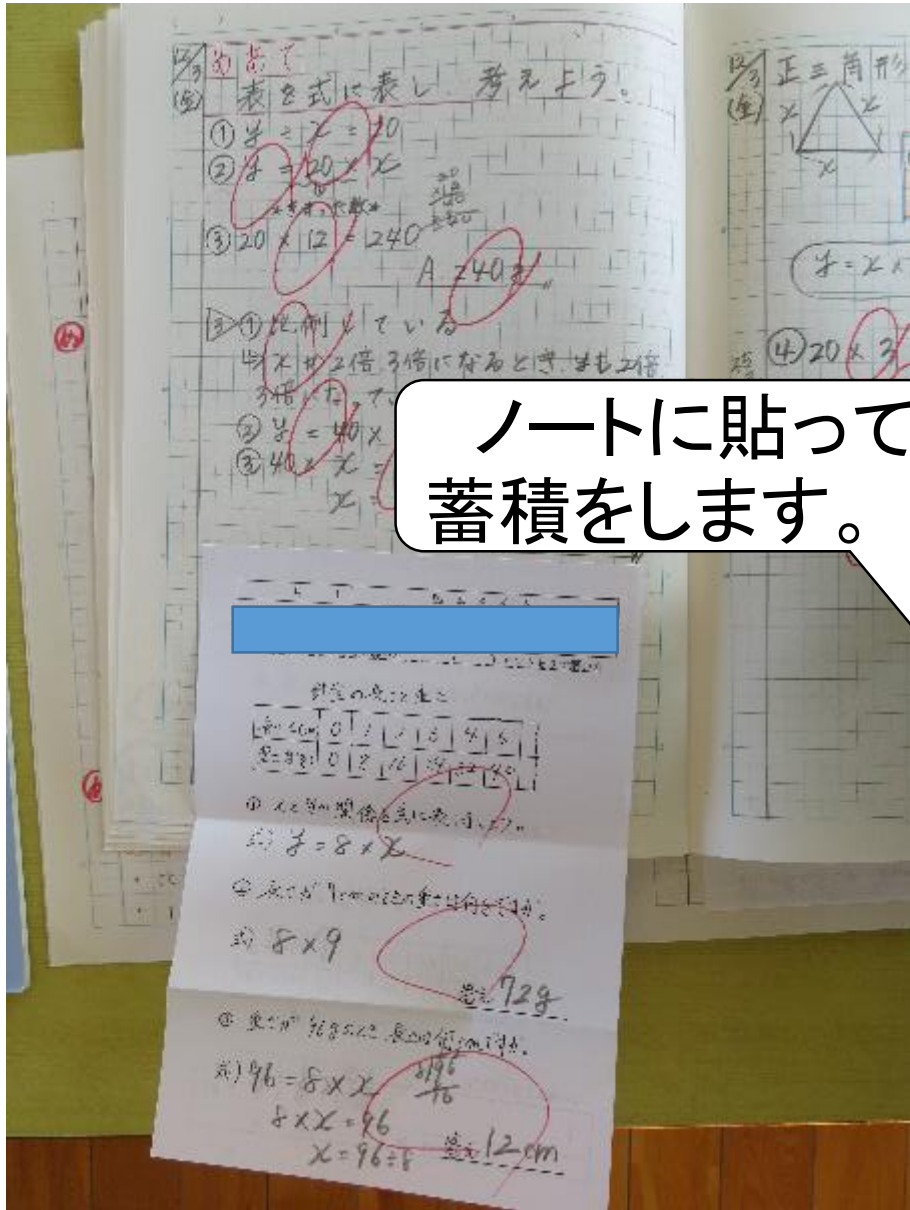
自力解決が難しい場合は、ノートを見たり、先生や早く終わった友達から解決のヒントをもらったりします¹⁷



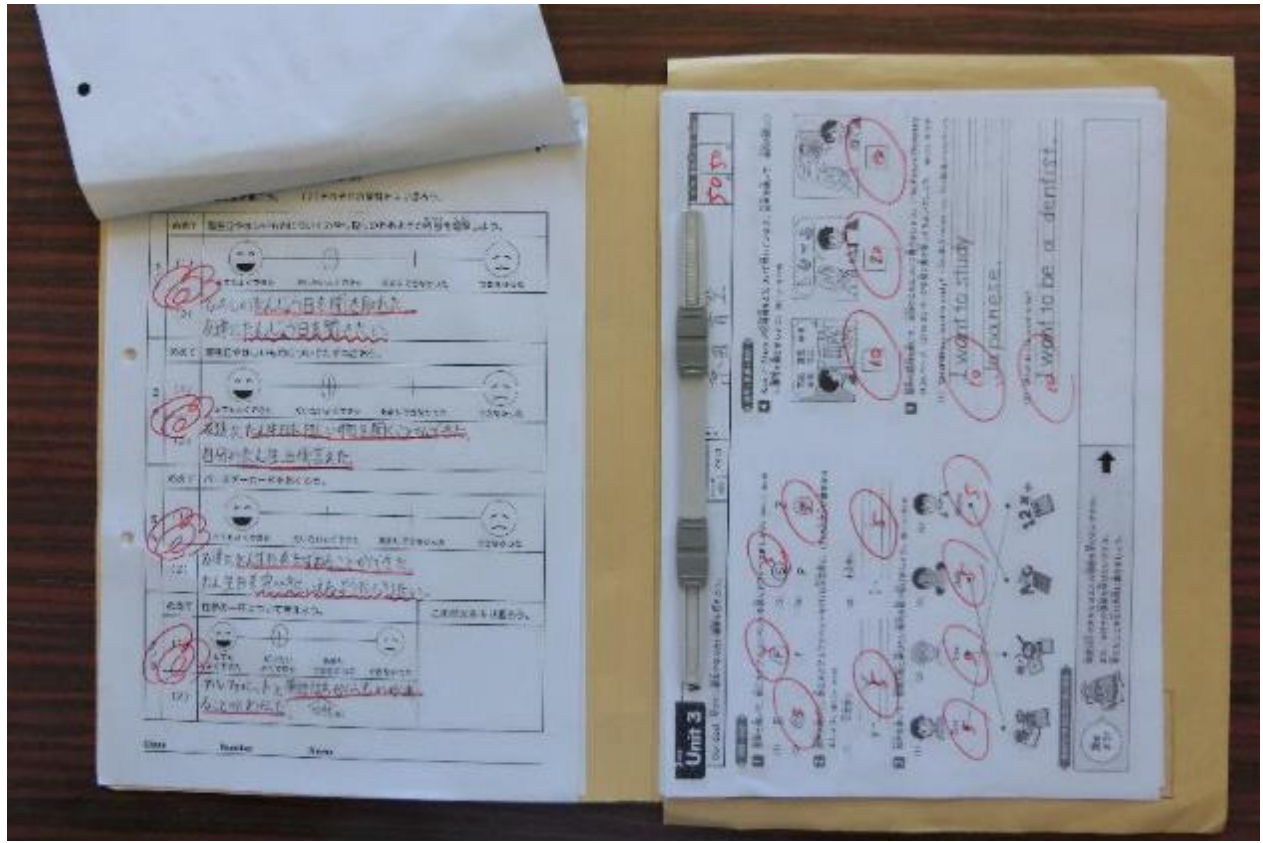
正解できたら、裏面の同じ問題に再挑戦。

3 授業改善

「分かった」「できた」の実感



ノートに貼って学びの蓄積をします。



ファイリングして学びの蓄積をします。



- 分かったこと
- できるようになったこと
- 自分や友達の学び方
- 感想 など

多くの授業では、「書く」時間を確保することが難しいため、ペアで振り返りを行うことが多いです。

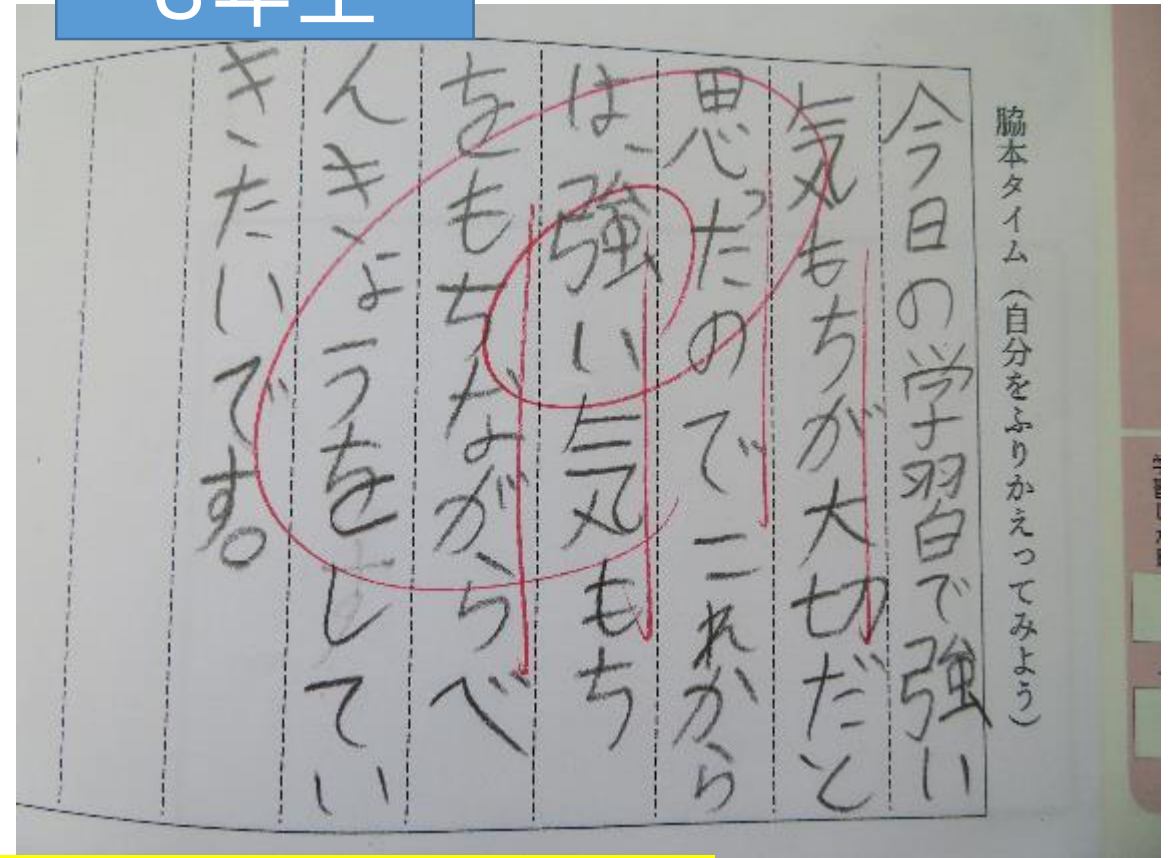


振り返りの例示

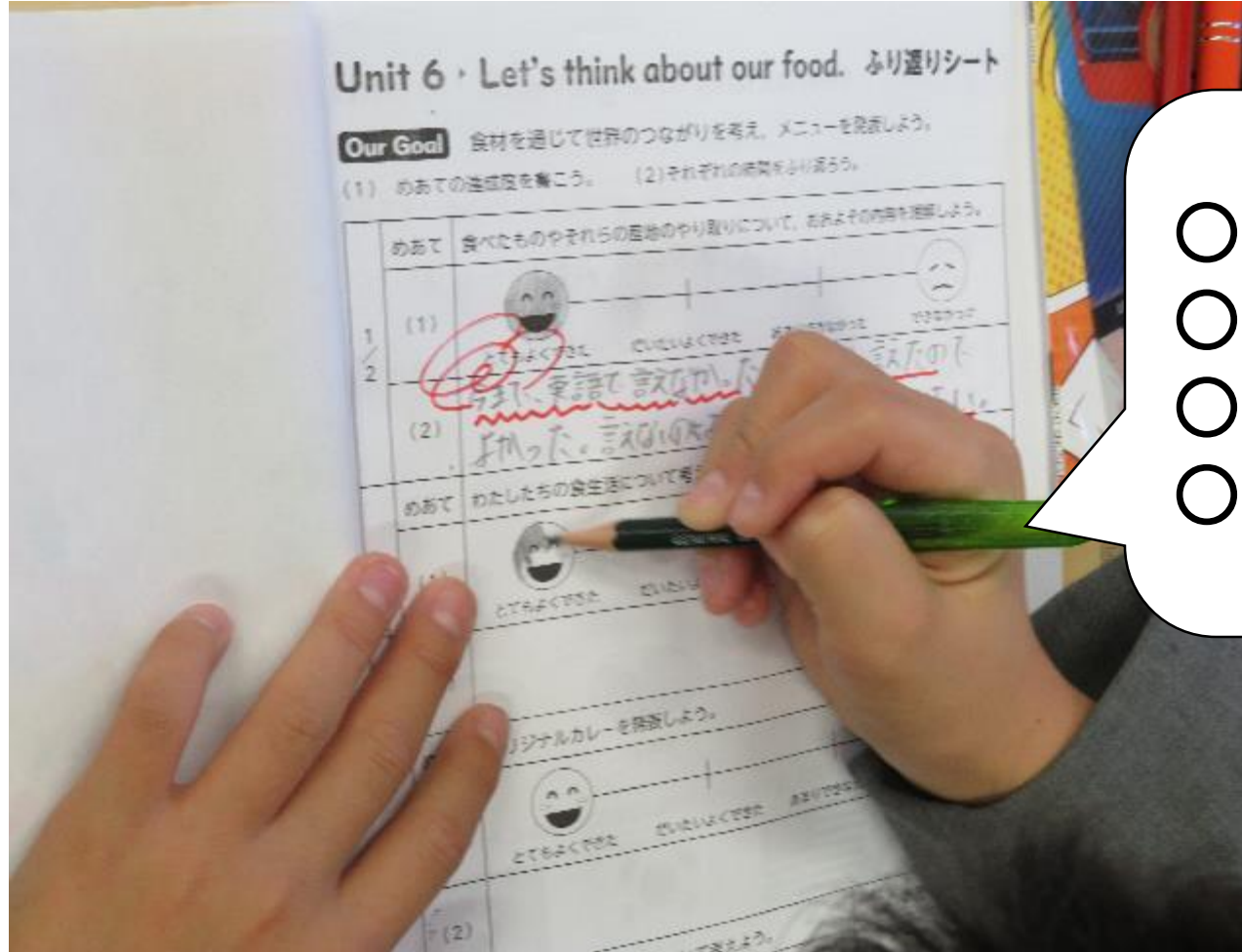
道とくの時間の「脳本タイム」の書き方

- ① 今までの私は〇〇だったけど、これからは△△していきたいです。
- ② 今までの私は〇〇だったので、これからも〇〇していきたいです。
- ③ 今日の学習で〇〇が大切だと思った（きづいた）ので、これからは△△していきたいです。
- ④ 今日の学習で〇〇が大切だと思った（きづいた）ので、これからも〇〇していきたいです。
- ⑤ 今の自分には〇〇が足りないと思ったので、これからは△△していきたいと思いました。

3年生



振り返りプリントの活用（特別の教科 道徳）



- 自己の理解度(4段階)
- できるようになったこと
- もっとできるようになりたいこと
- 友達の良かったところ

振り返りシートの活用(外国語科)

自分の名前と出身地もしっかりできた。

(60)

自分の名前と出身地をしっかりと伝えるようになったので
よかった。
歌もしっかりできた。

(60)

Unit1 (年度初め) の感想

発表でお米やお肉の産地をはっきりと発表するこ
とができた。
次はそのお肉はどうやって運ばれてきたのかを英語で試してみたい。

みんなの前ですらすらカレーのことについて発表するこ
とができた。友達の発表では、味をいれて発表している人
もいてすごいと思った。だから、次は、味についても発表してみたい。

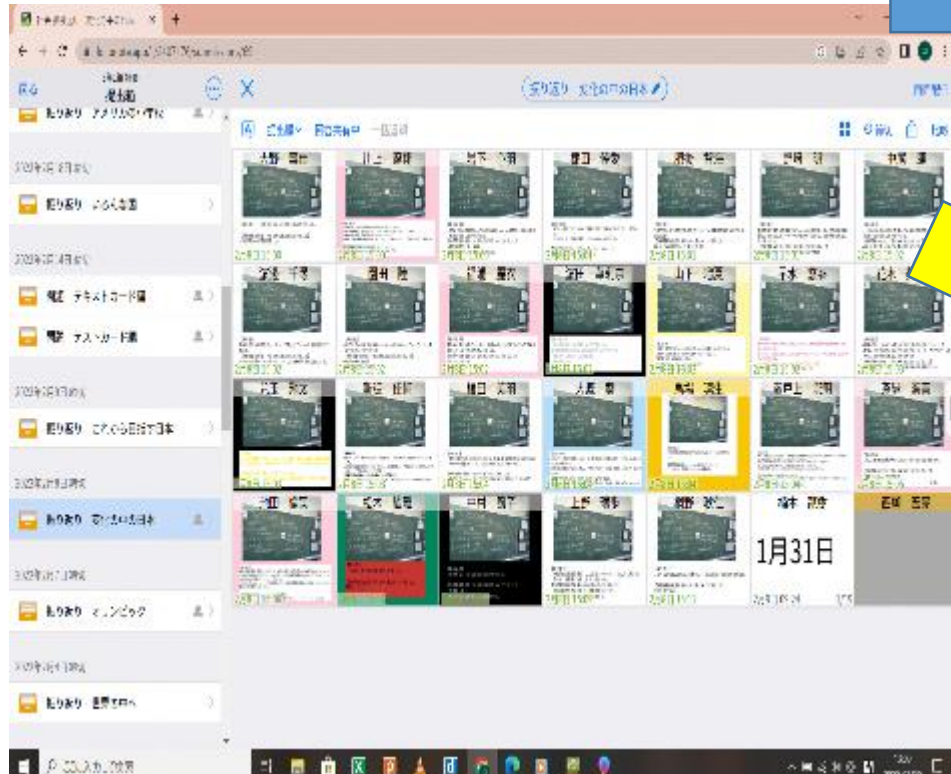
Unit6 (二学期後半) の感想

児童(6年生)の感想から見える変容

モデルを示したり、振り返りを共有したりすることを継続しました。



6年生



【課題『防災問題』に対して、どのような国を目指すべきか】
 防災の対策をしっかりと、災害で亡くなる人を減らすことを目指せばいいと思う。



2月9日 10:26 山下 翔真 1/1

ICTを活用した振り返り



個々の振り返りを共有し、自己の考えを深めることができます。

(4) 一人一授業

○ ねらい

略案を作成した相互の授業参観を通して、共通実践事項の取組状況を確認するとともに、教師の学習指導力の向上を図る。

○ 時期 11月～12月

○ 対象者 校内の研究授業の提供者以外の全員(11人)

○ 共通実践事項

①「対話活動の充実」 ②「ICT機器の活用」 ③「脇本タイムの充実」

○ 授業後の振り返り

① 参観者による気付き ② 校長による指導

(4) 一人一授業

Handwritten notes on a grid background. The grid has columns for 'ICTの活用', '臨本タイム', and 'その他'. Notes include 'ICTの活用' (ICT usage), '臨本タイム' (Lesson study time), and 'その他' (Others). There are also notes about 'よい(参考にされた)' (Good (reference used)) and '改善点' (Improvement points).

相互参観による気付き

一人一授業の振り返り

11月11日(木)4年算数「面積」授業者 教諭 森 和樹
北薩の授業づくり3ポイント～臨本版★～から。
～「主体的・対話的で深い学び」をめざして～

1 目標の明確化
課題(問題)意識をもたせる「めあて」。
○ 子供の実態に合った学習課題の設定。
○ 疑問形による「めあて」の設定。
○ 学習の「めあて」の共有化。

2 子供が主役となる学び
課題の自力追究。
○ 見通しをもたせる場の設定。
○ 子供一人一人の学習状況の的確な把握(机間指導の徹底)。
○ 自分の考えを広く時間の確保(相手に分かる説明)。

★対話活動の充実1(ペアやグループ活動での思考の深め)
○ わるいを明確にしたペアやグループでの話し合い。
○ 「なぜ」「どうして」を追究する学び合い。
○ 対話による思考の活性化。

★対話活動の充実2(全体での練り上げ)
○ 思考を深める疑問、思考を促す疑問。
○ リヴォイスング。
(再生化による子供の発言内容の明確化)

3 ★臨本タイム(ラスト10分)の充実
無点化された「まとめ」。
○ キーワードを使った子供による「まとめ」。
○ 「分かった・できた」の実感。
○ 全国学力・学習状況調査等や自作問題の活用。
○ 家庭学習(復習・予習)と授業の連動。
○ 全国学力・学習状況調査等や自作問題の活用。

1 対話活動の充実
○ よりよい方法の発見や意味の理解を深める深い学びにつながる取組である。

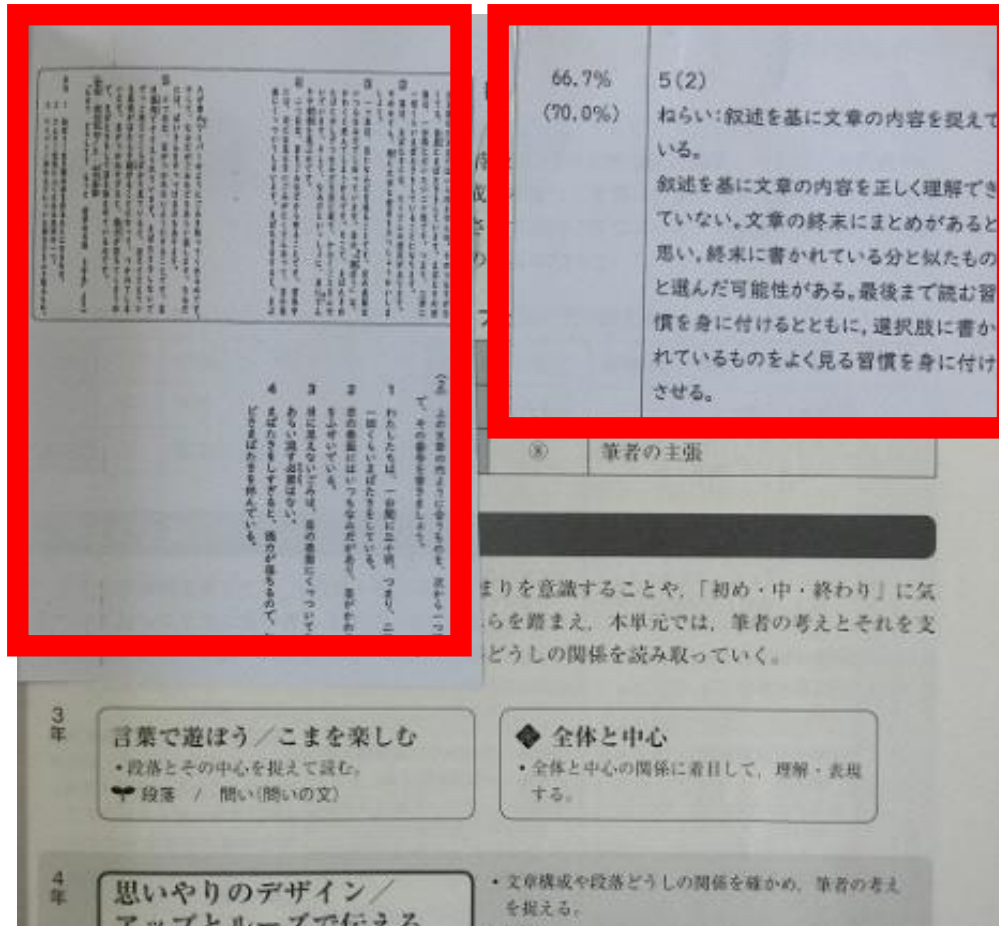
2 臨本タイム(ラスト10分)の充実
○ 時間確保がなされていた。子供が意欲的に問題に取り組み、「分かった・できた」を実感していた。早く済んだら他の方法に取り組む姿から、学習意欲の向上が感じられた。評価A(十分満足できる)の姿が見られた。

3 ICT機器の効果的な活用
○ 子供が発表する場面でのノート撮影は良いアイデア(短時間で簡単に拡大表示)。
○ ロイロノートを使うと個々の考えを提出箱に提出したり、発表する子供の考えを他の子供に送ったりすることができる。手元で見るとより見やすくなる。

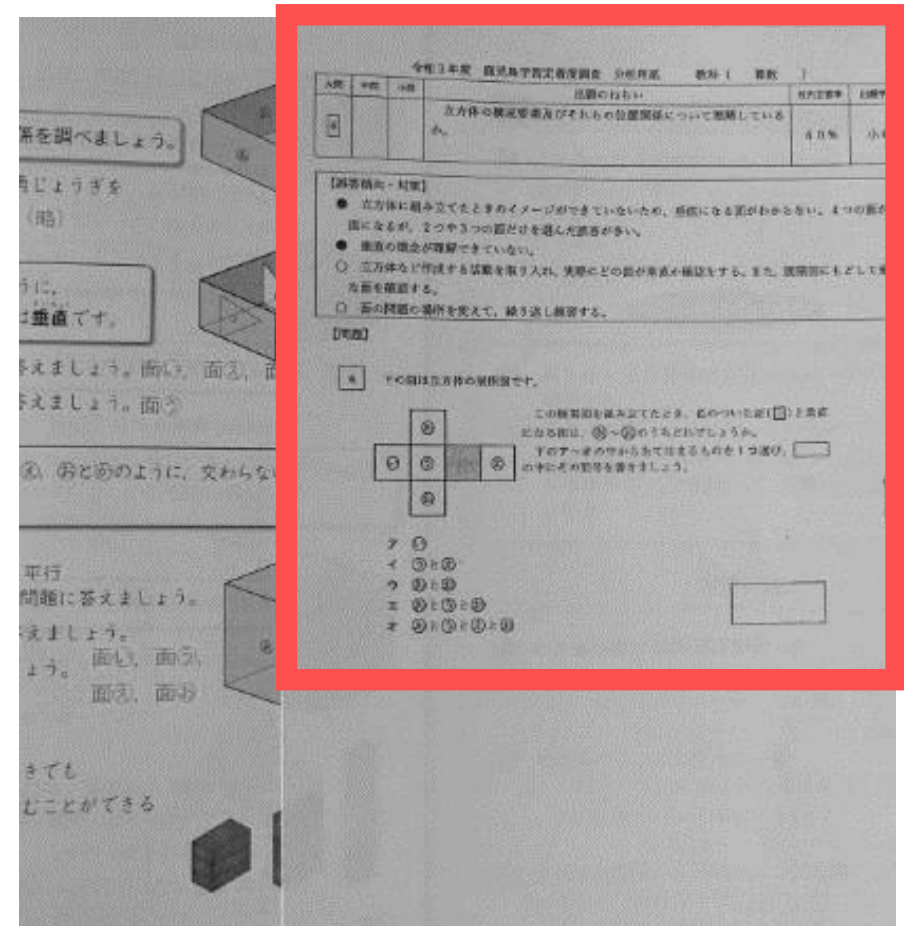
4 その他
○ 多くの子供が目標を達成できた授業であった。指導と評価の一体化を目指し、指導案にA評価とB評価が示されたこと、また手立てが明確であったこと、疑問や指示が適切であったことが主な要因と考える。
○ 複合図形の面積を直感的に比べる導入クイズが効果的で、短時間で子供の意欲を高めた。
※ 金曜日にロイロノートの自主研修(16:30～)があります。シースマイルで確認して是非受講を!

校長によるまとめ

通過率の低い問題と対策を教師用教科書に貼付



標準学力検査 国語



鹿児島学習定着度調査 算数

GIGAタイム



異なる目標に向けて、学習を深め、広げることができます。(学習の個性化)



ドリルパークに挑戦

調べ学習(社会科の予習)

ログイン練習

タイピング

フォームでアンケート回答

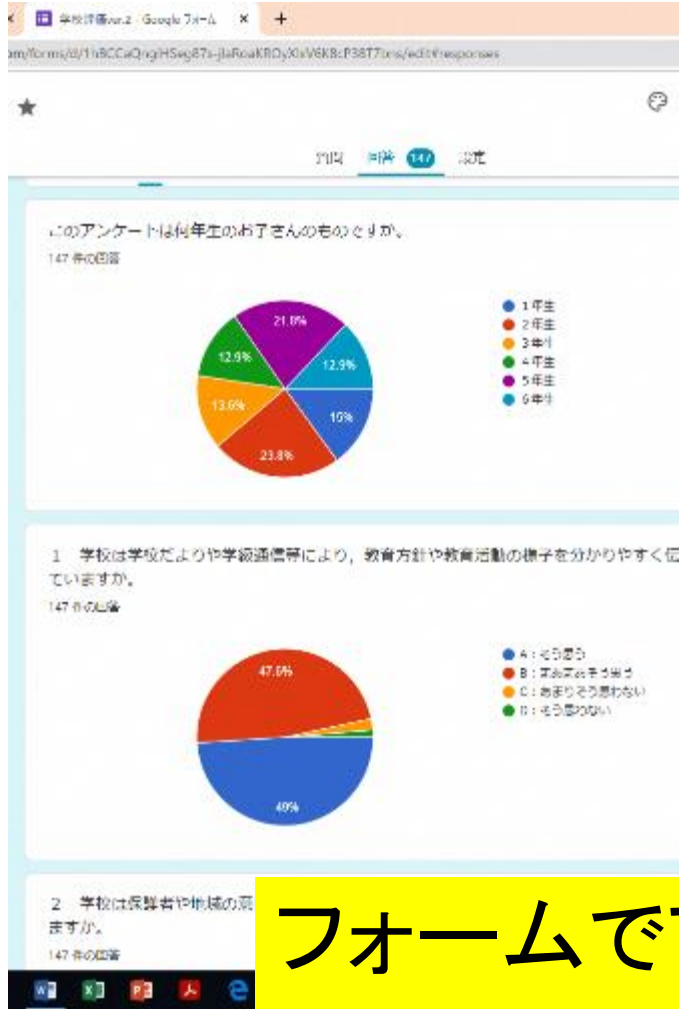
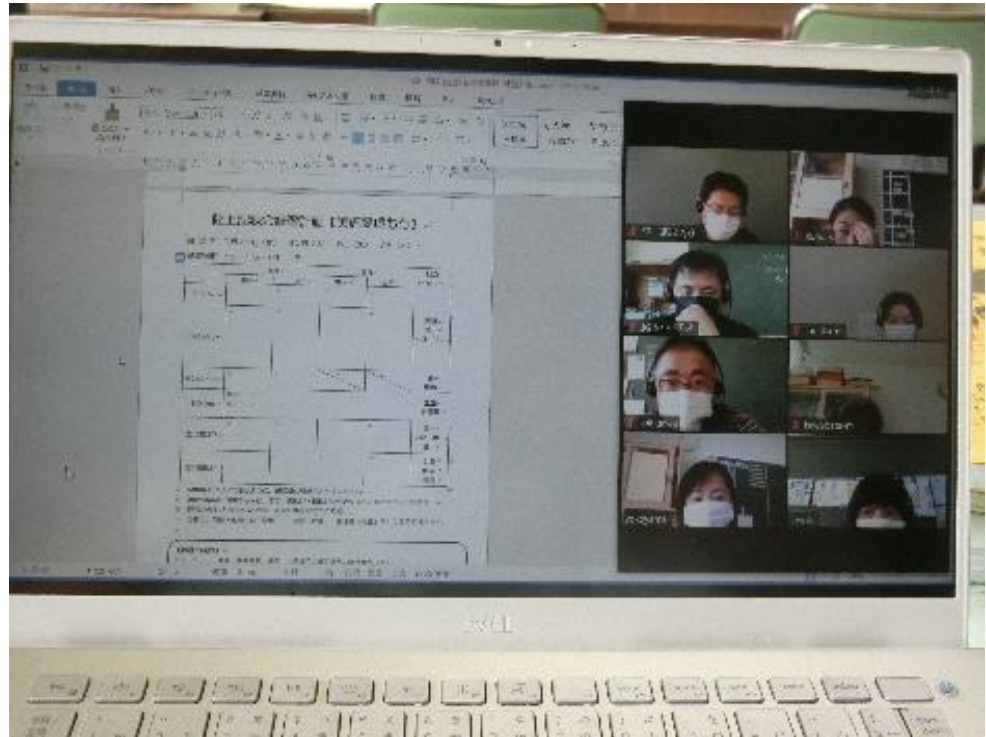
情報モラル指導

等



個別最適な学びの場になります。

校務のICT化



オンライン職員会議

フォームでアンケート集計

5 成果と課題



(1) 成果

- ア 授業における3つの共通実践「対話活動の充実」「ICTの活用」「協本タイムの充実」を昨年度から継続することで、児童一人一人を大切にした「協本小授業モデル」が定着しつつある。
- イ 学力向上をめざした様々な取組によって、児童の学習意欲が高まりつつある。
- ウ 「対話活動」を取り入れた授業を実践することで、自分の考えに自信をもてるようになるなど、児童の「自己肯定感」が高まりつつある。
- エ 「振り返り」を充実させることで、「分かったこと」「できたこと」「学び方」を自分の言葉で説明しようとする児童が増えており、学習の定着につながってきている。

5 成果と課題

(2) 課題

- ア 各種学力検査の結果に一喜一憂するのではなく、分析結果を基に継続した取組を行っていく必要がある。
- イ 全職員がICTを効果的に活用できるように、情報を共有する場を設けたり、個々のICTの活用能力に応じた研修を行ったりする必要がある。
- ウ 「対話活動」をより充実させるために、一人一人が考えをもてるような取組が必要である。
- エ 「振り返り」が単に「楽しかった」などの感想の共有になってしまう児童もいるため、これまでの学びを生かしたり、本日の学びを自覚したりする振り返りについて指導していく必要がある。



ご清聴ありがとうございました。

